



【4-5年】グローバルリーダー育成サマーキャンプ①

2017年8月4日(土)-6日(月)2泊3日でNTTセミナーセンタ(つくづく閉館が惜しまれます)にて「北海道SGH校合同企画」として実施した「グローバルリーダー育成サマーキャンプ」は充実した講師陣による渾身の魅力的なコンテンツにおけるダイアログを通して「自己改革」が実現できるワークショップでした。次号以降にポイントのみを紹介していきます。

●講師紹介

・豊田 雅朝 氏



国際協力機構(JICA)勤務。アジア経営大学院大学卒(フィリピン)、ベトナムやアゼルバイジャン等の駐在経験、青年海外協力隊経験(フィリピンセブ島・音楽隊員)あり。

・小山 朝英 氏



国際協力機構(JICA)、ボストン・コンサルティング・グループを経て、現在大手商業銀行に勤務。東京大学大学院・ストックホルム王立工科大学修了。アジアを中心とした地域の業務に従事。

・佐野 悠一郎 氏



国際協力機構(JICA)勤務。これまでサブサハラ・アフリカ各国とインド向け経済協力に従事。インド事務所にも3年半勤務。ハーバード大学ケネディスクール卒。

・紺野 貴嗣 氏



国際協力機構(JICA)、経済産業省(出向)を経て、現在はアメリス株式会社に勤務。エジプトで3年2か月に及ぶ駐在経験あり。IE Business School 卒、経営学修士(MBA)。

・田中 亜依 氏



国際協力機構(JICA)勤務。ベトナム向け経済協力に従事し、現在はベトナム・南アジア地域をメインにマクロ経済分析を担当。東京大学卒。

*参加生徒 = 札幌聖心1名、札幌日本大学2名、立命館慶祥1名、札幌開成9名
(登別明日は日程があわず今年は残念でしたが明日主催「AKB イグ リックキャンプ」に本校から4名参加)



【4-5年】グローバルリーダー育成サマーキャンプ②

【1日目】ワークショップメモ

(1) 議論する目的 (小山講師)

- 社会でうまくいかないことが多い。高校で勉強しておきたかったことは…？」
- ・グローバルで活躍するための議論する力と教養。
- ・議論する力、議論を活用して考えるということを知る。
- ・議論を通じて物事を深く理解し考えを進化させられることを学ぶ、有効に議論ができるように自分の意見の持ち方。
- ・教養、国際社会で求められる教養への関心を高める、知識の獲得だけでなくそれらを異なる考え方やその背景への洞察力、ものごとのつながりを想像する力を獲得
- ・考え、他者と協力して考えを進化させること、文化的背景が全く違う人にもその意見をしっかりと説明し考えを理解してもらえるか
- ・教養のために物事を多面的に見る。歴史宗教などを背景にした各地の紛争戦争にかかる背景、ものの価値観や世界の課題への理解促進が可能。
- ・議論の目的は意見を出し合ってより良い考えや理解を得ることで、喧嘩口論自分の意見の押し付けではない



(2) 意見出しゲーム (小山講師)

- テーマ「日本は核兵器を持つべきだ」〈以下は生徒のダイアログ〉
 - ・賛成、危険な存在だが保有国は攻められない
 - ・反対、非核三原則、今でも作れる、抑止力自体は認める、しかし日本の背景を思う、今の日本が成り立つ大切なもの、感情論で反対、他国に手伝ってもらってもよい、とにかく嫌だ。
 - ・反対、抑止力のデメリットがある。
 - ・反対、核がなくても防衛力を高めれば大丈夫。
 - ・反対、抑止になるとは限らない、むしろ緊張が高まる。
 - ・反対、保留、悩むので。
 - ・反対、日本の信用が失われる、日本は平和国家として世界から認識されている。
 - ・反対、戦争しないために非核三原則を作った、核を持てば戦争をするという意味を示す。
 - ・反対、理由はなんであれ、とにかく認めたくない。
 - ・反対、そもそも戦争はないような気がするから要らない。
 - ・反対、理由はわからないが賛成にすることができない。
 - ・反対、持つという行為が戦争を媒介にする意味である。
- 大多数が反対だったが、同じ反対でもその根拠や意見は様々で、この対話が自分の信念を揺さぶる。省略するがより身近な学校を話題にした別のテーマでは一通り賛成反対の意見を出した後で、2巡目で意見を変える生徒が続出。人の意見を聞くことの大切さを痛感する。





【4-5年】グローバルリーダー育成サマーキャンプ⑩

【3日目】ワークショップメモ

(1) 意見出しゲーム (小山講師)

●前提「comfort zoneからいかに出るか」

問い「日本は核兵器を持つべきだ」

- 反対、非核三原則というルールがある。
- 反対、憲法がある、アメリカとの同盟、核以外の防衛が可能。
- 反対、非核三原則が周知、他の国の対応を想定、雪崩的に核拡散する恐れ。
- 反対、システム構築に時間がかかる。
- 反対、戦争に加担することになる。
- 反対、某国は核開発で制裁を受けた、日本も受ける。
- 賛成、今はアメリカには守られているが外れたら巻き込まれる、抑止力になる。
- 反対、金がかかる。
- 賛成、核保有国の先進国と政治的には同じ舞台だが、保有の有無で差ができるのはどうか。
- 反対、戦争しないことになっている、自衛のために相手を攻撃する必要、アメリカに守られている。
- 賛成、抑止力になる、自分の身は自分で守れ。
- 賛成、工学部の学生でも作ることはできる、核があるために戦争が起こっていない。



(ここから自由意見)

- 核保有反対派はコストがかかるというが、金はあるはず。
- そこは賛成する、しかし兵器として目的にそぐわない、あれほどの破壊力が必要か。
- 金の使い道としてどうか？ 優先順位があるはず。
- 核兵器を持っていても、日本から侵略することはない。
- 核兵器保有に意味があるというが、金云々ではなく気持ちとして嫌だ、持たない良さがある。
- 反対派の意見を整理すると「非核三原則を守れ」と「金があるなら社会保障の充実」か。
- 核の抑止力というのは、果たしてどの程度実現しているのか。
- (話題が「抑止力」「集団的自衛権」「非核三原則」議論が拡散した時には整理が必要)
- 撃たない前提で持っている、持っていることに意味がある、そういう認識だったはずだが。
- 「抑止力」の事例はキューバ危機のような事例に現代で通用するのか。
- 撃つギリギリまで引っ張ったのを抑止力というのか、某国がそう思うのか疑問。
- 某国のミサイルは当ててこない、威嚇はするが直接攻撃はしない。
- 某国のミサイルは果たして成功なのか失敗なのか。本当に日本やアメリカを狙っているのか。
- 某国がミサイルを日本に向けていないというのなら日本が核を持つ必要はない、そもそも狙われていないのだったら抑止力も要らない。
- 将来は核がなくなるのが理想だが、現状では核保有国があるから保有すべき、しかしそれが戦争の意志にならないような平和利用、交戦権を認めないというだけで保有する意味。
- 今は保有して未来になくす。

……云々 (拡散したので論点の整理、後略)

(2) ラップアップ = 全日程終了